

PC建協新年ご挨拶の会を開催

令和4年1月14日に東京都千代田区のホテルグランドアーク半蔵門で「新年ご挨拶の会」を開催しました。新型コロナウイルス感染症予防対策として人数を制限して着席形式となりましたが、151名の皆さまにご参加いただきました。

来賓として佐藤信秋参議院議員、足立敏之参議院議員、井林辰憲衆議院議員、山田邦博国土交通事務次官、吉岡幹夫国土交通省技監、菊川滋日



▲ 新年の挨拶を述べる大野会長



▲ PC建協新年ご挨拶の会の様子

本道路協会会長をお迎えしました。

大野達也PC建協会会長は「プレキャスト技術の活用とICTの活用を2本柱とする「i-Bridge」をさらに推進していく『生産性向上挑戦の年』にしたい。加えて、カーボンニュートラルなど新たな課題に対する協会の方針を示すため、現行の『ビジョン2017』を進化させた新ビジョンの策定に取り組んでいく」と新年の挨拶を述べました。続いて、来賓の方々からご挨拶をいただきました。

全国から開通情報

(北海道支部)

函館・江差自動車道茂辺地木古内道路
(北斗茂辺地IC～木古内IC) 開通

令和4年3月26日に函館・江差自動車道茂辺地木古内道路北斗茂辺地IC～木古内IC(延長16.0km)が開通しました。

今回の開通で、函館ICから木古内ICの所要時間は30分程度と、これまでより5分以上短縮し、道南西部各地域の観光活性化などが期待されます。

木古内町のファミリースポーツセンターでの記念式典後、通り初めで開通を祝いました。



▲ 函館・江差自動車道茂辺地木古内道路 パトカーの先導による通り初め

(東北支部)

国道281号下川井工区 開通

令和4年2月5日に岩手県久慈市山形町の国道281号下川井工区(延長1160m)が開通しました。

国道281号は、東北地域の沿岸部と内陸部を結ぶ幹線道路です。下川井工区は幅員が狭く、落石の危険がありました。今回の開通で安全な通行が可能となりました。

下川井1号橋での開通セレモニーには自治体関係者などが出席し、テープカット、くす玉開披、通り初めで開通を祝いました。



▲ 国道281号下川井工区 下川井1号橋でのテープカット

その他

● 国道252号本名バイパス



▲ 県道岩城弓削線ゆめしま海道 岩城橋

(四国支部)
県道岩城弓削線ゆめしま海道
全線開通

令和4年3月20日に愛媛県上島町の県道岩城弓削線ゆめしま海道の岩城島〜生名島間(延長2・0 km)が開通し、ゆめしま海道(総延長約6・1 km)が全線開通しました。

今回の開通で岩城島と生名島が上島架橋(岩城橋)で結ばれ、佐島、弓削島を含む4島間を陸路で移動することが可能になりました。これにより、医療・福祉の連携、観光の活性化などによる地域の発展が期待されます。



▲ 徳島南部自動車道 吉野川サンライズ大橋

徳島南部自動車道(徳島JCT〜徳島沖洲IC) 開通

令和4年3月21日に徳島県徳島市の徳島南部自動車道徳島JCT〜徳島沖洲IC(延長4・7 km)が開通しました。

今回の開通により、徳島自動車道と徳島南部自動車道が接続し、国道11号や国道55号などの慢性的な渋滞の緩和や災害時の代替機能の強化などが期待されます。

徳島市内の徳島沖洲ICで催された開通式には、地元関係者など約220人が出席し、テープカット、くす玉開披、通り初めで開通を祝いました。



▲ 国道329号与那原バイパス 与那原町での開通式

(九州支部)
国道329号与那原バイパス 全線開通(暫定2車線)

令和4年3月6日に沖縄県与那原町の国道329号与那原バイパス与那原〜与那覇間(延長2・2 km)が暫定2車線で開通しました。これにより与那原バイパス(総延長4・2 km)は全線開通しました。

今回の開通で那覇市の県庁からマリンタウン東浜まで51分と所要時間が約8分短縮されました。

与那原町で開かれた式典には自治体など関係者が約50人出席し、テープカットやくす玉開披などで開通を祝いました。

その他

● 福岡県道船越前原線バイパス



▲ 横市IC付近での開通式(出所: 国土交通省九州地方整備局YouTube動画「都城志布志道路乙房IC〜横市IC開通式(宮崎河川国道事務所)」)

都城志布志道路(乙房IC〜横市IC) 開通

令和4年3月12日に都城志布志道路乙房IC〜横市IC(延長3・0 km)が開通しました。

今回の開通で、志布志港までの所要時間はこれまでより約13分短縮されました。また豪雨による冠水時の迂回路として期待されます。

都城市の横市IC付近で催された開通式には地元関係者など約70人が出席し、テープカットや通り初めで開通を祝いました。

令和4年度の本部主催の意見交換会テーマ等決まる

PC建協では、令和4年度の各発注機関との意見交換会について、基本となる提案テーマを次のとおり決定しました。意見交換会は、6月の国土交通省道路局を皮切りに、各地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局と7月から11月にかけて開催予定です。

1 年度工事量の安定的・持続的な確保

2 働き方改革の推進
①総労働時間の削減
②技能労働者の処遇改善

3 生産性向上の推進
①プレキャスト化の推進

4 PC橋の長期保全の推進
①PC補修工事における技術提案・交渉方式の更なる発注要請

5 PC建築(PC Ca PC造の建築)の推進
①庁舎計画にPC Ca PC造を推進
②防災施設(津波避難ビル、人工地盤、避難タワー等)にPC Ca PC造を推進

②地方自治体支援要請(国土交通省の直轄代行業務の更なる推奨)

②防災施設(津波避難ビル、人工地盤、避難タワー等)にPC Ca PC造を推進

PC技術専門家を派遣

PC建協では多くの学生にPC構造に興味を持ってもらうことを目的にPC技術専門家派遣事業を展開しています。

(関東支部)

令和4年1月13日と2月17日の2回にわたって、群馬工業高等学校環境都市工学科4年生30人に講義を実施しました。

講義ではPCの概要やPC橋の施工などについて模型を用いて説明し、続いて緊張実演を行いました。



▲群馬工業高等学校での講義の様子

(北陸支部)

令和3年12月17日に金沢大学理工学域地球社会基盤学類の2年生81人を対象に「PCに関する基礎知識」と題した講義を実施しました。

講義では、建設業の仕組み、PC橋の概要と施工、石川県内のPC建造物と各種資材サンプルの紹介、模型でのPC橋の仕組みの後、緊張実演を行いました。

今回は「PCを知らなかった」という学生が多かったのですが、授業が終了した後も熱心に質問を寄せる学生も見えて、この講義をきっかけにPCへの理解を深める人が少なくなかった様子でした。



▲金沢大学での講義の様子

(関西支部)

令和3年12月24日に京都大学工学部社会基盤工学科の3年生40人に講義を実施しました。

講義ではPCの概要、PC橋の概要、形式や施工方法、最近のPC技術の動向を説明した後に緊張実演を行いました。

コロナ禍によって、PCに関する対面講義が見送られていました。今回の座学は2年ぶりの実施でしたが、活発な質疑応答があり、学生たちはPCに大変興味を抱いていたようです。この講義がきっかけとなって学生たちがPCへの関心を今後高めていくことが期待されます。



▲京都大学での緊張実演の様子



▲ 呉工業高等専門学校での講義の様子

(中国支部)

令和3年12月1日に呉工業高等専門学校環境都市工学科の2年生39人に講義を実施しました。

講義では、PC建協の紹介、橋梁模型や実物のPC板などを用いたPC技術の模擬体験、PC概論、PC構造物の用途例、インスタグラムを用いた活動例、若手技術者による現在の仕事内容の紹介などを行いました。

PCの詳しい話を聞くのは初めてという学生が多く、今回の講義が今後の学習に役立つきっかけになることが期待されます。

そのほか令和3年12月以降に実施されたPC技術専門家の派遣講義は次のとおりです。

開催日	支部名	学校名	開催日	支部名	学校名
12月1日	北海道	函館工業高等専門学校	12月17日	関東	東京都市大学建築都市デザイン学部
12月1日、15日	関東	宇都宮大学地域デザイン科学部	12月20日	北海道	北海学園大学工学部
12月1日	関東	東京理科大学理工学部	12月20日	東北	岩手大学理工学部
12月2日	東北	秋田大学理工学部	12月21日、1月11日	関西	大阪工業大学工学部
12月3日	関西	関西大学環境都市工学部	12月23日	北陸	長岡工業高等専門学校
12月7日、9日	関東	国士館大学理工学部	12月27日	関東	日本大学理工学部
12月8日、15日	北海道	北海道大学工学部	1月5日、12日	北海道	北海道科学大学工学部
12月8日、15日	北海道	苫小牧工業高等専門学校	1月7日	関東	中央大学理工学部
12月10日	関東	木更津工業高等専門学校	1月12日	北陸	石川工業高等専門学校
12月10日、2月2日	関東	茨城大学工学部	1月18日	東北	東北大学工学部
12月13日	北陸	福井工業高等専門学校	1月18日	関西	舞鶴工業高等専門学校
12月14日	東北	八戸工業大学工学部	1月24日	関東	東海大学工学部

各地でPC技術講習会を開催

PC技術に関する講習会が各地で開催されました。

(関西支部)

令和3年12月2日に神戸市中央区の三宮研修センターでの「令和3年度市町村建設事業担当職員現場監督実務研修(主催(公財)兵庫県まちづくり技術センター)」の中で、PC技術の講習を行いました。

自治体の若手土木技術職員35人を対象に、コンクリートの施工管理、工事検査、監督職員の豆知識(コンクリート編)を説明し、最後にコンクリートの受入れ検査の動画を全員で視聴しました。



▲ 現場監督実務研修の様子

(中国支部)

令和3年12月21日にオンライン形式で開催された「令和3年度鳥取県技術講習会(主催(公財)鳥取県建設技術センター)」の中で、「橋梁維持補修(PC橋)」に関する講習を行いました。

県職員や建設業・コンサルタント技術者で経験年数10年以上の52人を対象に、「PC橋の「維持修繕の基本事項」、「点検要領と調査手法」、「補修補強技術」、「維持保全に関する話題」の4テーマを講義しました。

そのほか、令和3年12月以降に実施されたPC技術講習会は次のとおりです。

開催日	支部名	技術講習会名	受講者数
12月 8日	東北	福島県橋梁技術講習会	48人
12月 8日	関東	長野県技術講習会	32人
12月10日	九州	沖縄総合事務局 橋梁マネジメント現場支援講習会	28人
12月14日	関西	奈良県土木技術職員研修	33人
1月27日	東北	岩手県土木技術専門研修会	41人
2月14日	中国	国土交通省中国地方整備局 橋梁勉強会	50人
2月16日	関東	さいたま市コンサルタンツ協会 技術講習会	30人
3月14日 ~20日	九州	沖縄地区PC技術説明会	62人

令和3年度第20回高校生「橋梁模型」作品発表会

(東北支部)

令和4年2月15日に「第20回高校生『橋梁模型』作品発表会」がオンライン形式で行われました。

橋の模型づくりを通じて、橋の知識の習得と、橋梁の土木構造物への理解を深めることを目的に、高等学校や高等専門学校で土木を学ぶ生徒を対象としています。今回は東北6県の16校から28作品の応募があり、秋田県立秋田工業高等学校の「駒形橋」が最優秀賞に選ばれました。

PC建協東北支部は初年度から実行委員会の一員として共催しています。

建設技術展示会に出展

(中部支部)

令和3年12月14日と15日の2日間、愛知県名古屋市の名古屋市中企業振興会館で開催された「建設技術フェア2022 Line中部」の「学生交流ひろば」に出展しました。

PC建協のブースには106人の来訪がありました。学生の皆さんには展示物のびよんびよん板へ実際に乗っていただき、PC構造物の丈夫さを体感してもらいました。

PC建協、書籍2冊を刊行

PC建協は4月にコンクリートに関する書籍2冊を発行しました。最新の各種規格、工法、知見に対応した内容に更新しています。

『PC橋コンクリート施工管理の手引き2022年版』

●平成14年7月発行版の改訂版

●「コンクリート標準示方書(公社)土木学会刊・2012年度版」の「基本原則編」と「設計編・施工編(改訂版)」、および「同2017年度」の「維持管理編」に対応

『道路橋用プレストレストコンクリート橋桁 設計・製造便覧(軽荷重スラブ橋げた)』

●平成16年6月発行版の改訂版

●「道路橋示方書平成29年度版」に準拠

●「第V編 図面」の鉄筋配置を変更

令和4年度各種講習会日程

(PC建協主催)

第29回プレストレストコンクリート建築技術講習会

【演目】

①神戸市西区総合庁舎『P C I S工法によるフレキシブルな執務空間

の実現』

(株)昭和設計 久保岳、房安智也、辻井成実

②岩国市立東小・中学校『P C aファイバーレインディール架構でつくる光あふれる教室』

(株)石本建築事務所 中山貴、原健一郎

③名古屋造形大学『アウトフレーム型ハイブリッド格子壁の実現』

(株)山本理顕設計工房 玉田誠、オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド 伊藤潤一郎

④嘉麻市庁舎『意匠・構造・設備の融合による機能的な市庁舎』

(株)久米設計 永野孝之、福田光俊

●日時 7月29日(金)13時～17時

●形式 オンライン形式

●申込 オンラインシステム「Zoomウェビナー」から事前登録し、参加用URL(本人専用)を受け取ってアクセス

●質疑 当日会場チャットにて回答

●会場 上限2000人の予定(完全WEB開催の場合あり。後日、PC建協WEBにて発信)

(PC工学会主催)

第49回プレストレストコンクリート技術講習会

【題目】

①低炭素型セメント結合材を用いたプレストレストコンクリート橋

②最新のP C・P C a技術による建築

③高速道路の取組み

④鉄道150周年とP C構造

⑤P C技術に関する海外の話題

⑥P Cアーカイブ「嵐山橋」

⑦プレストレストコンクリート初級講座

●日時 6月6日(月)～27日(月)

●形式 オンデマンド動画の配信

(富士教育訓練センター主催・P C工業協会協力)

【名称・開催日・会場】

第12回P C工事技能実習

10月18日(火)～20日(木)

富士教育訓練センター

第6回コンクリート橋架設等作業主任者技能講習

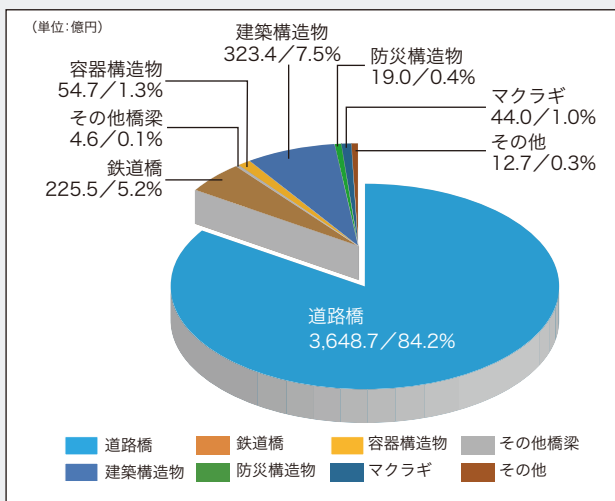
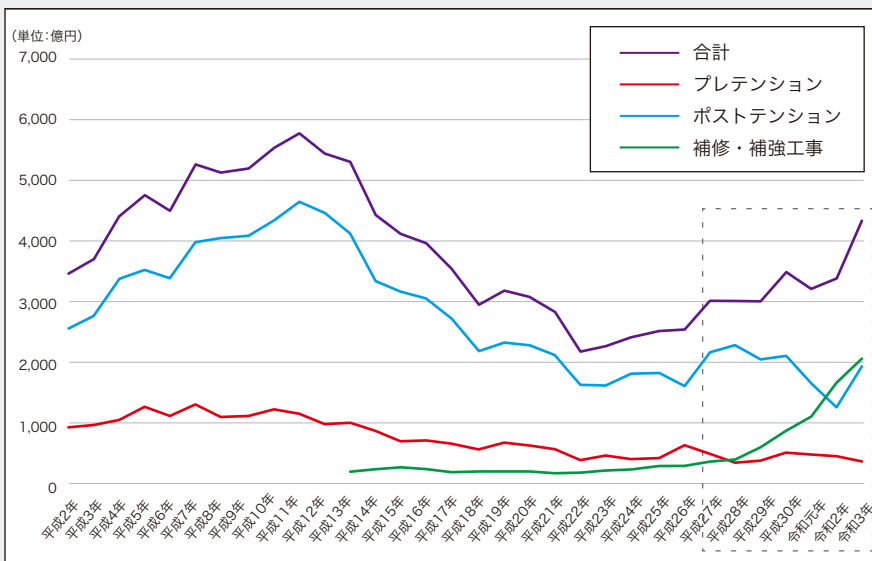
10月20日(木)～21日(金)

富士教育訓練センター

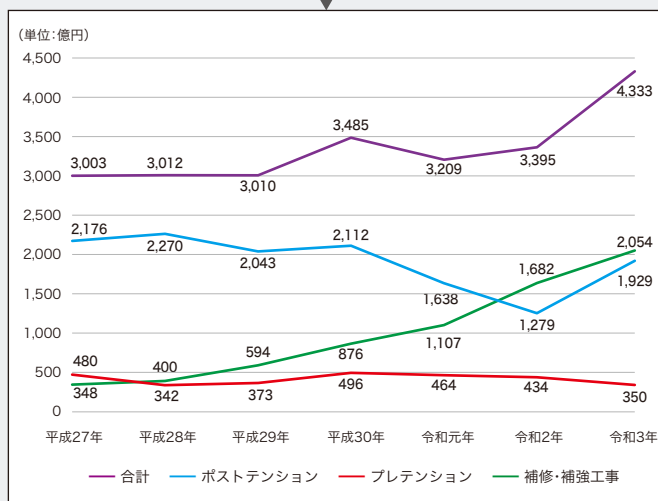
PC統計(受注実績)

令和3年度のPC 建協会員の受注高は、4,333億円と昨年度より938億円増加しました。新設部門は対前年度133%に増加、補修・補強部門も対前年度122%に増加したことにより全体として28%増加し、7期連続して3,000億円超え、平成15年度以来18年ぶりに4,000億円を超えました。

用途別では、道路橋が3,649億円(前年度2,696億円)、鉄道橋が226億円(前年度363億円)となりました。道路橋の内訳は、新設工事が1,634億円(前年度1,059億円)、補修・補強工事が2,015億円(前年度1,637億円)となりました。



令和3年度用途別受注実績



年度別受注推移

編集委員会

柳橋 則夫(編集委員長)、石井 一生(副委員長)、
吉山 誠之(副委員長)、湯山 芳夫、大信田 秀治、鈴木 裕二、
竹本 伸一、大塚 俊介、太野垣 泰博

編集幹事会

荒畑 智志(幹事長)、小谷 仁(副幹事長)、瀬戸 裕一郎(副幹事長)、
阪田 憲一、青木 隆昌、河野 雅弘、栗川 修、喜多 俊介、木村 良輔、浅野 真人、
勝野 源基、岡本 修一、直井 秀市、関地 正幸、武内 涼太郎、坂田 貴俊

編集後記

東日本大震災より10年目の福島訪問でした。私自身、仙台へ転勤となり福島担当になったのは10年半前、仙台を離れたのは1年前。仕事で接してきた福島と、改めて訪れた福島の姿が違って見えました。道路の整備により、インフラは元の姿に戻ってきましたが、人々の生活はなかなか元には戻らないようです。そんな中でも一生懸命に頑張っている方々の姿を取材できたのは、貴重な経験でした。震災復興という一時的なブームで終わることなく、次に進むためのステップを歩み始めている人にたくさんお会いすることができました。「福が満開、福の島」そのキャッチフレーズの通り、これからも福島の福が満開になることを願っています。

3月16日の深夜に最大震度6強を観測する地震が福島県沖で発生しました。その影響により津波警報も発令されました。ようやく次へ進もうと思っている矢先の出来事に、11年前を思い出しました。宮城県・福島県の方々、取材をさせていただいた皆さまにおかれましては、今回の地震の影響が少ないことを願っています。東北新幹線の復旧にも時間がかかるということでした。こんな時こそ、土木会社力の見せ所。東北道の開通を早急に実現した力を、東日本大震災から復興した力を見せる時かもしれません。個人的には、地震大国である日本、いつ何処で、同じことが起きるかわかりません。今からでも遅くはないので、改めて自宅や職場の防災対策の確認をしておこうと思いました。

(阪田)